

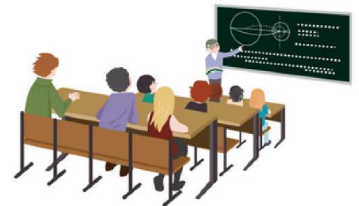
2月5日(火)9時00分からCRTで収録

大学入試が終わった日から、大学入試の受験科目以外の教科の勉強をスタート、大学入学式の日までに、一通り終了しよう！

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 現代の大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院など、所謂(いわゆる)、「高等教育機関(以下、大学と略称します)」の最大の問題は何か。  
(2) 大学入試で受験しない「高等学校で学ぶべき教科」を、全くと言ってよいほど、十分に「理解」し「定着」することなく、大学に進学する学生が、多数存在することです。
2. (1) 現代の大学は、大学設置基準が大幅に厳格化され、1回90分の授業について、4時間30分の予習・復習が、すべての大学に課されています。  
(2) 大学の授業は、課題を発見し、その原因、ではどうしたらよいかという解決に向けての対策などを話し合うアクティブラーニングが多く、授業では、予め出された課題についての意見発表・意見交換・議論が多く行われます。  
(3) 今までのように、先生が一方向的に、テキストや教材を用いて「これはこのようなことですよ」と、ていねいに説明、質問に答えるような授業は激減。ですから、テキストの「理解」や「定着」は、授業の前に「予習」として、自分の力で行うことが求められます。  
○授業終了後は、その日の授業の課題について、1000文字程度のレポートの提出が求められます。
3. (1) 大学のテキストや教材はすべて、関連する教科を中学や高校で学んだことを前提に作成されています。  
(2) 中学や高校の内容を復習してから、大学の内容に入る教科書や教材は、ありません。
4. (1) 大学入試で受験した教科は、受験勉強で十分学び、「理解」し「定着」していると思われるかもしれませんが、受験しなかった教科は、高校時代に十分に「理解」し「定着」していない学生が多いようです。  
(2) 更に、進学する大学の学部・専攻科などで、前提とされる教科や必要とされる教科を、高校時代に「履修」していない学生が、多数存在します。
5. ではどうしたらよいか。  
(1) 大学進学先が決まったら、大学で「極端な学力不足」にならないよう、高校で学ばなかった教科をすべて[学び直す]ことをおすすめします。  
(2) 具体的には、理科系の学部に進学するのに、数学Iだけでは、大学の授業についていけません。



ん。数学ⅡやB、Ⅲも、高校の教科書ややさしい参考書を用いて、しっかり「学び直し」をいたしましょう。

(3) 物理、化学、生物、地球環境(地学)を、高校時代に「履修」していなければ、高校の教科書や、説明がていねいなやさしい参考書を用いて、しっかり「学び直し」をいたしましょう。

○「理科系」教科である高校数学や、高校理科の各分野の参考書として、「講談社の新書本、ブルーバックス」をおすすめします。



6. (1) 文科系の大学・学部・専攻科に進学するのに、高校時代に入試科目しか学んでいなければ、入学式までに、ノートを取りながら、しっかり学び直しましょう。

(2) 日本史・世界史は、古代から現代まで、しっかり学び直す。

(3) 倫理・経済を「履修」せず、学んでいなければ、高校倫理の教科書や参考書で、しっかり学び直す。

○社会科の参考書として、「山川出版の、『もう一度学ぶ日本史・世界史・地理・倫理・政治経済・哲学』」などをおすすめします。

7. (1) 国語・英語は、文系・理系に関わらず、どの大学・学部・専攻科に進学するにも、高校内容の完全「理解」、完全「定着」は必須です。

(2) 高校で設置されているすべての「教科」で、「履修しなかった教科」があれば、「学び直し」をおすすめします。

(3) 英語・数学・理科・社会・国語以外の教科、つまり、高校音楽・高校美術・高校保健体育・高校家庭科・高校情報なども、高校教科書ややさしい参考書を用いて、すべて学び直すことをおすすめします。



8. 大学進学先が決まったら、是非行っていただきたいことが、もう一つあります。

(1) それは、大学の授業内容の「先取り学習」です。

(2) 特に、英語以外の第二外国語を履修する場合には、その言語の「入門書」を購入、どんどん自学自習、購入した入門書を「スミからスミまで理解」「スミからスミまで定着」を図ることを、おすすめします。

(3) ①大学での「第二外国語」の授業は、どんどん進みます。

②ポーっとしていると、あっという間に大学の授業についていけなくなります。

③単位認定試験で点数が取れなければ、再履修、留年、退学の原因となります。

9. (1) これに加えて、1教科でもOKですから、大学1年の必修教科で、その大学・学部・専攻科で使用するテキスト・教材を、大学の書店で購入し、ゆっくり「予習」することをおすすめします。

(2) 大学こそ、その学年が始まる直前の春休みから、GWの終わりまでの2か月の間に、前期の「教科書・教材」をすべて「予習」し終えることをおすすめします。

(3) 9月下旬からの後期の「授業の教科書・教材」も、前期試験終了の日から、夏休みの2か月の間に、1教科でも多く、しっかり「予習」し終えることをおすすめします。  
がんばってくださいね。